

甲 第 号

堀中 昭良 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	矢野 寿一
論文審査担当者	委員	教授	和中 明生
	委員(指導教員)	教授	北原 糺

主論文

Head-Up Sleep May Cure Patients With Intractable Benign Paroxysmal Positional Vertigo: A six-Month Randomized Trial

難治性の良性発作性頭位めまい症はヘッドアップした姿勢で就寝することにより治り得る：6ヶ月間のランダム化比較試験

Akira Horinaka, Tadashi Kitahara, Tomoyuki Shiozaki, Taeko Ito, Yoshiro

Wada, Toshiaki Yamanaka, Kazuhiko Nario

Laryngoscope Investigative Otolaryngology 2019 May 7;4(3):353-358

論文審査の要旨

本研究は、めまい疾患統計でその約半数を占める良性発作性頭位めまい症(以下 BPPV)の新規治療法として、ヘッドアップ姿勢での就寝(以下 HUS)により浮遊耳石が半規管に迷入するのを防ぐことで治癒までの期間を短縮できるとの仮説を検証した。

対象は 2014 年 5 月から 2018 年 4 月までに奈良医大附属病院めまいセンターを受診した BPPV 難治例の 88 例で、ブロックランダム化により 44 例に 45 度前後の HUS を指導し、44 例は通常の見寝姿勢(以下 HDS)とした。

両群において患者背景に有意差は認めなかった。HUS 群において治療 3 ヶ月後及び 6 ヶ月後ともにめまい症状の VAS スコアは HDS 群のそれと比べ有意に低かった。治療開始前に認めた頭位・頭位変換眼振についても治療 6 ヶ月後において HUS 群で有意に消失していた。本研究により、超高齢社会を迎えさらに増加するであろう BPPV 難治例に対して HUS による初期治療が提案された。

公聴会において、HUS のめまい改善効果は起立性調節障害への改善効果ではないこと、眼振が認められない病態とは軽微な耳石剥離、軽微な頭部運動によるものとわかりやすく解説した。また、VAS での評価法、画像診断の発展性などの質問に対して、適切かつ明快な質疑応答を行った。以上より、本研究論文は難治性 BPPV 治療に対し十分な知見を与えるものと思われ、博士課程の学位論文としてふさわしいものと考えられる。

参 考 論 文

1. Idiopathic benign paroxysmal positional vertigo with persistent vertigo/dizziness sensation is associated with latent canal paresis, endolymphatic hydrops, and osteoporosis.
Tadashi Kitahara, Ichiro Ota, Akira Horinaka, Hiroki Ohyama, Masaharu Sakagami, Taeko Ito, Tomoyuki Shiozaki, Yoshiro Wada, Toshiaki Yamanaka
Auris Nasus Larynx. 2019 Feb;46(1):27-33.
2. 当科における小児後天性中耳真珠腫症例の検討
成尾 一彦, 堀中 昭良, 山下 哲範, 西村 忠己, 山中 敏彰, 細井 裕司,
北原 紘
Otology Japan (0917-2025)28 卷 2 号 Page91-97(2018.05)
3. ガス産生菌による深頸部膿瘍の 1 症例
秋岡 宏志, 成尾 一彦, 阪上 剛, 堀中 昭良
奈良県総合医療センター医学雑誌 (2189-1877)22 卷 1 号 Page60-
63(2018.03)
4. 真珠腫性中耳炎が再発し顔面神経麻痺、半規管破壊をきたした 1 例
松山 尚平, 成尾 一彦, 堀中 昭良, 阪上 剛
奈良県総合医療センター医学雑誌 (2189-1877)22 卷 1 号 Page68-
70(2018.03)

5. 鼻腔にみられた神経線維腫例

堀中 昭良, 和田 忠彦, 曾我 文貴, 井上 雄太, 羽田 史子, 藤田 明彦
耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)110 巻 6 号 Page385-390(2017.06)

6. Horner 症候群を呈した交感神経由来の悪性傍神経節腫例

曾我 文貴, 和田 忠彦, 井上 雄太, 堀中 昭良, 羽田 史子, 藤田 明彦
耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)110 巻 1 号 Page25-30(2017.01)

7. 小児慢性中耳炎に対する鼓膜形成の検討、主に小児側頭筋膜の検討

和田 忠彦, 岩永 迪孝, 堀中 昭良, 井上 雄太, 藤田 明彦
Otology Japan (0917-2025)25 巻 3 号 Page232-238(2015.07)

8. 中耳カルチノイド例

堀中 昭良, 和田 忠彦, 吉田 尚生, 井上 雄太, 藤田 明彦, 岩永 迪孝
耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)107 巻 4 号 Page275-280(2014.04)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年6月9日

学位審査委員長

微生物学

教授 矢野 寿一

学位審査委員

機能形態学

教授 和中 明生

学位審査委員(指導教員)

耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学

教授 北原 糺